

(別添様式2) 成果情報様式

[成果情報名] 農業用ため池における外来魚等の効果的な捕獲方法

[要 約] 原崎沼の堤体本体の耐震化の工事のための水抜きに伴い、外来魚等の捕獲を実施した。今後も計画されている工事のための水抜きの際は、排水路に築（止め）を設置して魚類を捕獲することが重要である。

[部 署] 山形県内水面水産研究所・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] ため池、水抜き、外来魚、築（止め）

---

[背景・ねらい]

原崎沼（天童市山口）（図1）では、堤体本体の耐震化のため実施される盛土の補強工事に必要な工事用道路築造のため、池の水抜き及び地盤改良が行われる。この施工前にため池の水を排水するが、ため池にはヘラブナ等の在来魚の他、オオクチバスやブルーギル等の外来魚が生息している。排水が最上川第二漁協が漁業権を持つ倉津川に流入するため、外来魚を川に侵入させないよう駆除を実施した。これらの結果を報告する。

[成果の内容・特徴]

- 1 作業は表1に示す日程で実施された。排水路には築（止め）を設置し（図2）た。築（止め）は3種類の目合い（大、中、小）のものを、水路の上流側から、大、中、小の順に計3ヶ所設置し、築と築に挟まれた区間に滞留した魚類を、上流から下流に向かってたも網またはさで網を用いて捕獲し（図3、4）、極力、下流に外来魚が流失しないようにした。
- 2 捕獲した外来魚は、ゴミ収集袋に収容し業者が処分した。捕獲重量は10月20日50kg、21日440kgで合計490kgであった。当歳魚と思われる全長約2cmのブルーギルが多数捕獲され、その重量は目測ではあるが約400kgであった。他はオオクチバスとコイ等が捕獲された。
- 3 電気ショッカーボートによる捕獲では泥が堆積しているあるいは水位が高い等の影響で、すべての魚類を捕獲することができなかったと考えられた。このため、排水路に築を設置して外来魚を捕獲するほうが効率的であると考えられる。なお、下流への外来魚の流失防止については、ブルーギル当歳魚が大量に捕獲されたことから概ね達成された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 令和4年度以降も県内の湖沼（ため池）での堤体本体の耐震化工事に伴う水抜きが計画されている。このような機会に排水路に築（止め）を設置して外来魚を捕獲・駆除することが重要である。
- 2 ヘラブナは、地元の愛護会の要望で、重量を測定後に水槽を積んだトラックで最上川第二漁協同組合の池に運搬し、工事終了まで漁協が管理して再放流することとなった。なお、捕獲重量は10月20日308kg、21日1,504kgで合計1,812kgであった。
- 3 原崎沼は、漁業権の無い農業用ため池である。

(別添様式2) 成果情報様式

[具体的なデータ]

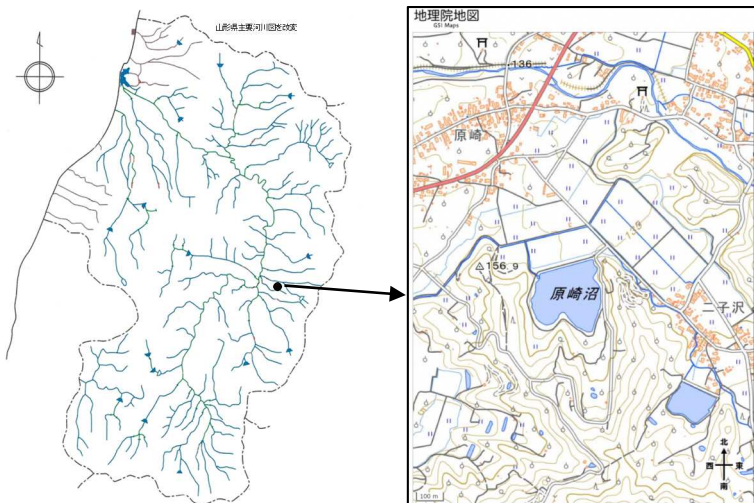


図1 原崎沼の位置

表1 作業の工程

月日	作業内容	採捕重量(kg)	
		外来魚	ヘラブナ
10月18日~19日	築の設置 底樋を少しずつ開けて水位を1m程度まで落とす	-	-
10月20日	電気ショッカーボートによる捕獲 (民間コンサルタント会社に委託) 外来魚を廃棄	50	308
10月21日	底樋を完全に開けて放水・築で捕獲 外来魚を廃棄	440	1,504



図2 築(止め)設置位置



図3 設置した築(止め)

[その他]

研究課題名：カワウ・外来魚駆除対策事業  
 予算区分：県単  
 研究期間：令和3年度(令和3年度)  
 研究担当者：河内正行  
 発表論文等：なし

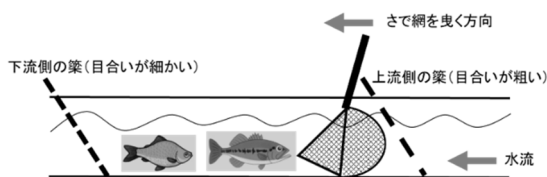


図4 築(止め)での魚類捕獲のイメージ